



第 244 号
令和 7 年 2 月 7 日
里山を育てる会

新年会及び仕事始め

1月 10 日(金)に仕事始めと、新年会を開催しました。仕事始めには、あいにくの天候のため、4名のみの参加でしたので、年始以降育ったシイタケの採取のみを行い解散しました。

新年会は、14名の参加を得て、乃木公民館で行いました。山の仕事では、一年の安全を祈願するため、「山の神」に感謝しつつ、新年会を執り行いました。

1月の作業から

12月に伐採した木の片付け

東屋の上の一帯で受光伐を行いましたが、写



真のように大量の木材と枝葉が発生しましたので、二日かけて玉切りと枝葉の処理を行いました。この後林床の落ち葉の書き取りを行う予定です。

東屋に風よけのシートの設置

季節風にさらされている東屋に、風よけの網目入りのシートで囲いました。

西側と北側のみですが吹きさらしでなくなりましたので、体感温度がかなり違った気がします。

できあがりのイメージは屋台の風よけです。

普段は閉じて使用時のみに展開する予定です



2月の予定

- ・地表面の灌木の刈り取りと落ち葉の搔き取り
- ・積雪による折損木の片付け

田和山の樹木 第 57 回 メダケとネザサ

田和山のササの仲間は、メダケとネザサです。タケとササを分けるのは、皮の付き方です。

タケは程（かん 木で言えば幹）が成長するにつれそれを包む葉鞘（皮）が脱落しますが、ササは枯れるまで程に葉鞘が残っています。メダケは、マダケ同様に竹細工の材料として使われており、家の近くに植えられていたものが、プラスチック製品の普及に伴い、使用されなくなり、放置され生育範囲を拡げています。一方のネザサは、明るいところを好み刈り込みにも強くどんどん生育範囲を広げています。ネザサが広がると里山特有の植物は、排除されていきます。田和山でもキンランと競争関係にあると思われますので、冬場の刈り込みが重要になってきます。



メダケは成長すると 4~5 メートルになりますが、ネザサはせいぜい 2 メートルぐらいで、径も細く見分けることも出来ます。また写真のように、葉が垂れ下がるのが、メダケで、ピンとしているのがネザサになります。

写真左がメダケで、右がネザサです。程に白っぽくついているのが皮です。

メダケには、呼び方が沢山ありシノタケ（篠竹）、オンナダケ、メダケ、ニガタケ、ナヨタケ等があります。それほど多く利用されていたのかかもしれません。

今後の活動予定 2月 7 日(金)、2月 15 日(土)、2月 21 日(金)、2月 28 日(金)、3月 7 日(金)3月 15 日(土)、3月 21 日(金)、3月 28 日(金)となります。時間は 13:30 からです。ただし、土曜日は 9:00 から始めます。